

## 退任挨拶

前副会長

太田賢司



シャープの太田でございます。2年間副会長を務めさせていただき、この度退任することとなりました。この間、竹中前会長、岡本会長並びに副会長、役員の方々をはじめとして多くの皆様方にお世話になり、ありがとうございました。

さて、私はシャープ株式会社入社以来一貫して研究開発に携わってまいりましたことから、技術者としての立場から知的財産権、特に特許に関わってまいりました。このため、こういった企業間の知財関係者の活動に接したのは、この副会長としての2年間が初めてでございました。総会・総会代行、理事会等の会合に出席し活動状況を聞かせて頂くにつれて、この協会の活動の重要性を深く認識するようになりました。

例えば、ここ数年の企業活動をみてみますと、これは程度の差こそあれどの会員企業についても言えることではないかと思いますが、新興国に活動の場を求めていっているというのが現実だろうと思います。こういう動きの中で知的財産権を的確に確保していくということ、そしてその権利を巧みに活用するということが企業活動の死命を制しかねない、そう思っております。

この観点から当協会の活動をみてみますと、2010年、2011年の2年間に各国の特許庁、日本の特許庁は言うに及ばずアメリカ、中国、韓国、あるいは、インド、マレーシア、フィリピンなどの新興国に至るいろいろな国の知的財産権関連施策等に対して意見、提言などを50件以上提出して下さいました。これはとりもなおさず、上に述べましたここ数年の企業活動に歩調を合わせたものでございます。この活動の活発さと領域の広さには改めて感心し、また、会員の皆様方のご努力・ご貢献に感謝している次第でございます。

さて、個々の企業にとっては、各国で具体的に知的財産権を成立させ、権利範囲を確定させ、活用を図るという実質面が今後ますます重要になり、この過程でいろいろな問題が起こってまいります。例えば、言語の問題、法律の解釈の問題などがあり、これらの問題は既に欧米諸国との間の国際的な企業活動の中で経験してきたことでございます。これらの問題が今後新興国との間で起こることが必然のように見受けられます。さらにまた、TPPに代表されるような各種の国際協調の議論の中で、新しいタイプの商標であるとか、デザインの法的な保護の問題であるとか、実に多岐にわたる問題が出てきております。当協会が個々の会員企業のこういった、現実に直面している問題、近い将来直面する問題を取り上げて、日本企業を代表する立場で各国に働きかける活動をますます推進していただければと思います。

私はここで任期を終えますが、今後とも協会の皆様方のご指導を頂きながらこの活動を支援してい

本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

きたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

ありがとうございました。

